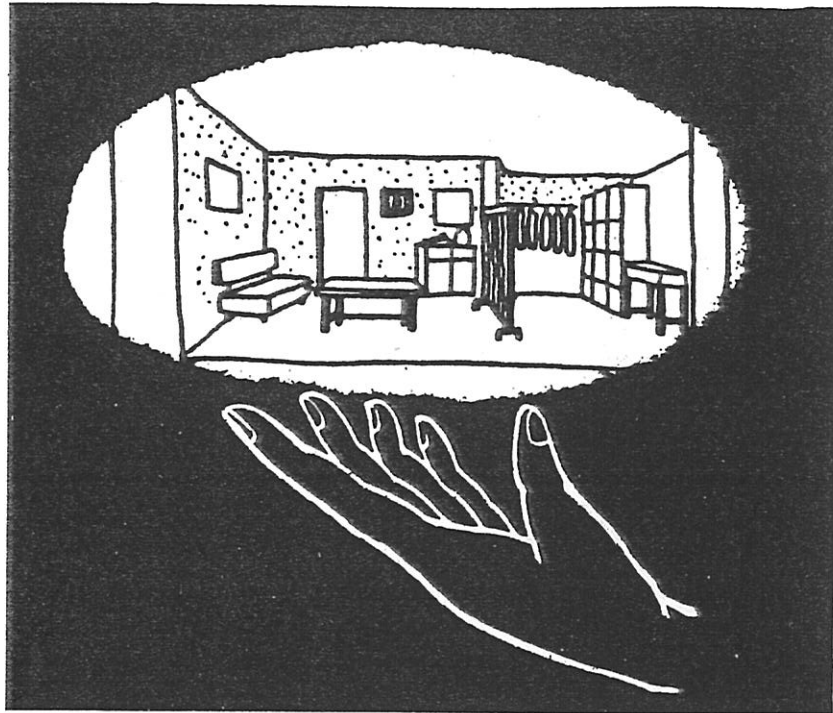


98569



審査員

女 優
 田 辺 初 枝 氏
 宮城県高等学校演劇協議会 理事
 齋 藤 信 雄 氏
 " "
 石 山 義 章 氏
 " "
 川 名 又 一 氏
 " 事務局長
 渡 辺 喜 雄 氏

プ ロ グ ラ ム

後 援 河北新報社・NHK仙台放送局・東北放送
 仙台放送・ミヤギテレビ・東日本放送

	11/19 (木)	11/20 (金)	11/21 (土)	11/22 (日)
9:00		開場・受付	開場・受付	
9:30	開場・受付	上演 6 (聖 和)	上演 12 (仙台南)	開場・受付
10:00	上演 1 (ドミニコ) 演劇部作 Selection -セレクション-	演劇部作 未 来 -みき-	石塚雄康作 埴 生 の 宿	上演 18 (泉)
11:00	上演 2 (仙 工) 筒井康隆作 改 札 口	上演 7 (二 女) 演劇部作 空に小鳥が いなくなった日 -谷川俊太郎氏の詩より-	上演 13 (宮 城) 演劇部作 Daydream believers -空想の信者 -アビエスの木-	雑賀聖作 にび色の砦
12:30	開 会 式	上演 8 (ウルスラ) 湯川計伍作 演劇部脚色 招 待 状	上演 14 (三 女) 内木文英作 赤いチケット	上演 19 (東 北) 演劇部作 クレンジング・ブルー
13:00	上演 3 (白百合) 清水邦夫作 楽 屋	上演 9 (女子商) 坊丸一平作 あなた自身の伝説	上演 15 (常盤木) 演劇部作 愛プロローグ -少女の青春によせて-	上演 20 (仙 高) ウォーレン・フロスト作 田中迪也訳 名もなき兵士
14:00	上演 4 (一 高) 演劇部作 靴磨きの少年	上演 10 (朴 沢) 長谷川行勇作 広 島 の 女	上演 16 (育 英) 別役実作 ポンコツ車と 五人の紳士	後 夜 祭
15:00	上演 5 (三 島) 演劇部作 国 と 美 と	上演 11 (向 山) 演劇部作 無 情 空 間	上演 17 (一 女) 演劇部作 醜 類	閉 会 式
16:30				創作 (10) 脚色 (1)
17:00				
18:00				
30				

- 注 1. 上演後幕間討論を行います。
 2. 上演中、会場内でのフラッシュ使用撮影はご遠慮下さい。
 3. 上演時間は多少繰り上がる場合がありますので御了承願います。

上演 1 聖ドミニコ学院高等学校 Selection—セレクション—

□ 作 演劇部

□ 顧問 熊谷久子
部長 相沢百合子

□ スタッフ

演 出 樋口 深雪(2)
舞台監督 佐藤美恵子(2)
装 置 伊藤 弘子(1), 佐藤美恵子(2)
照 明 高橋美代子(1), 村上 幸子(1)
効 果 高橋 潤子(1), 鶴谷 優子(1)
衣裳・メイク 樋口 深雪(2), 早坂 成子(3)

□ キャスト

女 A 及川 博美(1)
クロス 相沢百合子(3)
少女 伊藤真理子(1)
子供 石黒 裕子(1)
O L 千葉恵理子(2)

□ あらすじ

女Aは、どこにでもいる普通の女の子、別に欠陥があるわけじゃないのに、なぜかクラスメイトからはのけものにされている。それに、自分からもなかなか溶けてもうという勇気がでない。絶望のどん底……「みんなに注目されてみたい。」気がついたら……そこは、ビルの屋上。「ここから飛び降りたら……みんなが注目してくれる。」女Aは、ビルの屋上から飛び降りた。そして……。

□ 演出のことば

私達は今、生きています。
しかし、とても大切なことを忘れつつあるのでは……?! 生きるとは、どんなことなのでしょう。あなたも今、考えてみて下さい。私達にとって、演劇は生きていく生活の上で、とても大事な位置をしめています。苦しかった今までの練習の成果が、今爆発しようとしています。

上演 2 仙台工業高等学校 改札口

□ 作 筒井康隆

□ 顧問 渡辺喜雄, 斎藤広通
部長 大場政信

□ スタッフ

演 出 大場 政信(2)
舞台監督 五島 信浩(2)
装 置 大場 政信(2), 五島 信浩(2)
関 繁政(2), 佐々木 崇(2)
照 明 関 繁政(2), 大場 政信(2)
高橋 成寿(2)
効 果 大友 政幸(2), 佐々木 崇(2)
五島 信浩(2)
衣裳・メイク 大友 政幸(2), 大場 政信(2)
関 繁政(2)
協 力 菊地 泰彦(2)

□ キャスト

客 五島 信浩(2)
駅員1 大場 政信(2)
2 佐々木 崇(2)
紳士 関 繁政(2)

□ あらすじ

乗客は電車を降りてきました。早く自分の目的地に行こうとします。しかし駅員さんたちに引き止められて、なかなか行けません。
あたりはすっかり暗くなりました、だけどそれでも行けません。
乗客は都会へ出て働いていたんです。そして七年ぶりにこの故郷に帰ってきたのです。
いつまで続くのでしょうか、この拘束。
いつになったら帰れるのでしょうか、我が家へ。

□ 演出のことば

ふるさとして聞くと何かあたたかい感じがしませんか…? 私はそう思うのですが、この作品にとり組んでいるうちに、逆にふるさとのこわさに打ちのめされました。
七年ぶりにふるさとへ帰ってきた男の求めたもの。
ふるさとのこわさと男の求めたものを考えるところからこの芝居作りは始まりました。
我々は初めて演劇というものに取り組みますが、そんな事に甘えず、見ていただきたいと思えます。

上演 3 仙台白百合学園高等学校

楽 屋

作 清水邦夫

顧問 穂積正一, 小林千賀子
部長 殿塚恭子

スタッフ

演 出 関 佐智子(2)
館沢志寿子(1)
舞台監督 高橋 海香(2)
相沢 久子(1)
装 置 桜井ふみ江(1), 館沢志寿子(1)
遊佐 美香(1), 庄司 恵美(3)
照 明 佐藤 則子(3), 菊地 美江(1)
小林 天栄(3), 石川佳代子(2)
効 果 日下美佐子(1), 横山 真理(1)
衣裳・メイク 安達 珠子(2) 庄司 恵美(3)
相沢 久子(1)

キャスト

女優A 渡辺 由里(1)
B 殿塚 恭子(2)
C 大平 弘美(2)
D 佐藤 晴美(1)

あらすじ

今, 最も輝かしい女優生活を送っている女優C。自分たちの永遠の夢であった役を演じることのできないまま死んでしまった女優A B。果たしきれなかった役がいつかまわってくるのではないかと, 死人となって毎晩楽屋へ現れる2人と女優Cの前に, まくらを持った女優Dが姿を現わし……。

演出のことば

今までの白百合のイメージとは, ちょっとちがった脚本を, ということでこの台本をとりあげてみました。はなやかで美しい舞台。そして暗いうすよごれた楽屋。演じる女優のひたむきで苦しい裏の人生。この台本は, きらびやかな舞台の裏には, 何人も女優の悲しくつらい裏の人生があり, それも1つの舞台であるというようなことが書かれていると思うのです。人間が築きあげた美しいものには必ずどろくさい裏がある。そして鏡は今その裏の人生をうつしだすのです……。

まともに演じると1時間20分の劇です。時間を短縮する点その他もろもろ苦労してつくり上げた私たちの劇です。

上演 4 宮城県仙台第一高等学校

靴磨きの少年

作 演劇部

顧問 吉城文雄
部長 阿部盛一

スタッフ

演 出 阿部 盛一(2)
舞台監督 藤平 周一(1)
装 置 吉田正太郎(1) 川辺 学(1)
衣裳・メイク 吉田正太郎(1)

キャスト

浩 吉田正太郎(1)
聖 川辺 学(1)
高 藤平 周一(1)

あらすじ

高校生三人組のある土曜の午後の物語。浩, 聖, 高が繰り広げる数々の論理の展開。高校生がかかえている数々の不満を一挙に解決するストレス解消の劇。高校生ならば, 見ないと損をするもの。是非, 一見あれ。

演出のことば

我高のかかえている部員数の問題を克服するための大空にはばたく第一弾。過去の栄光を超えた問題の衝撃作。脚本をとりあげた理由, 何をどう表現しようとしたか, 練習, 準備の過程で苦しかったこと, 嬉しかったことなどの説明は見てのお楽しみ。

上演 5 三島学園女子高等学校

国と美と

□ 作 演劇部

□ 顧問 徳山昭光子, 小栗典子
部長 佐藤清美

□ スタッフ

演 出 高橋ゆかり(3)
丹 美智子(2)
舞台監督 中山 敏子(3)
装 置 二郷 英子(2), 相沢 絵美(1)
照 明 鈴木 宏子(1), 佐藤 清美(1)
効 果 後藤 治美(2), 三沢 圭子(2)
衣裳・メイク 岩淵 順子(1), 柴田三千代(1)
小 道 具 藤江 淑(1)

□ キャスト

美子(ミ ジャ) 佐藤 清美(3)
淑貞(ジョンズー) 山田 弘恵(3)
春美(チュンミ) 中野目千春(2)
雪江(ソルガン) 北見ゆかり(2)
賢玉(ヒョンノ) 佐藤 知香(2)
笑蘭(ソラン) 丹 美智子(2)

□ あらすじ

私達は国の美でなくてはならない!どんな時であろうと,どんな事がおころうと……。
— そのように心に誓ってきたのに……。愛する者を,大切な同胞を奪われても,私達は国の美でなくてはならない。そんなこと,できるでしょうか。
この劇は政治批判劇ではありません。あくまでも,ごく平凡な少女達のドラマなのです。

□ 演出のことば

この劇を作るにあたって私達は多くの意味で様々な戦いをしました。先生を始め,先輩,スポーツ店,テレビ局,領事館,楽器店,材木屋さん,図書館……etc。もちろん私達の中でも,大戦争が幾度も起こり,互いに傷だらけになりました。(予算戦争はすさまじかったね,会計さん。)——しかし,私達は互いに負けず嫌いの強情っぱり,そのくせ人一倍優しい心の持ち主でした。互いの傷をなめあい,ヒッシと抱き合いここまでやってきました。これも戦いを受けて下さった方々のおかげです。

上演 6 聖和学園吉田高等学校

未来一みき一

□ 作 演劇部

□ 顧問 佐藤喜志夫
部長 森須賀子

□ スタッフ

演 出 菅原ルミ子(2)
舞台監督 藤原 淳子(2)
装 置 遠藤 利子(3), 森 須賀子(3)
照 明 伊藤 和恵(3), 高島 美樹(3)
効 果 吉田 ゆみ(3), 板橋 幸江(1)
衣裳・メイク 我妻美由紀(3), 片峰由紀子(3)

□ キャスト

少 女 片峰由紀子(3)
キューピットA 森 須賀子(3)
B 伊藤 和恵(3)
C 高島 美樹(3)
D 遠藤 利子(3)
E 我妻美由紀(3)

□ あらすじ

小さな夢,小さなあこがれを胸に愛を想う一人の少女。
その少女をとりまく様にキューピットたち。
キューピットの力を借り少女の夢は大きく花開く。けれどそこには少女の想像を超えた苛酷な現実が——。
ためらい,不安,欲望,失望,そして未来夢と現実のギャップの中で少女が自分の手でつかみ感じ取ったものは?少女が見つめはじめていた未来は……。

□ 演出のことば

活動のテーマを『創作』として久しくなります。その集大成としてこの『未来一みき一』を発表します。
私たちのまわりに影のようにたむろする。"愛"、"恋"、それを一人の少女を通じて演じてみようと思います。
最近にない少人数の部員に加え,活動の中心が三年生という苦しい条件の中で,私達は貴重な勉強をさせていただきました。一人二役,三役。どこかで手抜きになっているかも知れません。けれど私たちなりに精一杯芝居づくりに励みました。
私たちが表現したかった事が少しでもわかっていたいただければ幸いです。 —たぬき座一同—

上演 7 宮城県第二女子高等学校

空に小鳥がいなくなった日
—谷川俊太郎氏の詩より—

作 演劇部

顧問 程島秀明

部長 大澤奈々美

スタッフ

演出 大澤奈々美(2)
熊谷 淳子(1)
舞台監督 鈴木 文恵(1)
鈴木 香識(1)
装 置 伊藤 由美(2), 牛田 詠子(2)
大友ひろみ(1)
照 明 庄子 千香(2), 青木しのぶ(1)
効 果 歌書百合子(2), 田畑 恵美(1)
衣裳・メイク 板垣由美子(2), 佐々木麻希(1)

キャスト

女 1 加藤 久美(1)
2 水野えりか(2)
生物生態学者 A 石川 真理(1)
B (助手) 加賀屋美奈子(1)
C (助手) 浅野 文代(1)
文明人い ろ 安部 典子(1)
ろ 小野里 秋(1)
は 蓮沼 美紀(2)

あらすじ

朝、目が覚めると小鳥の声が聞こえてきた
朝の光が部屋いっぱいさしこむように、窓をあける
外の景色は日ごとに緑を増している
まだちょっとだけ空気が冷たい
太陽がもう少し高くなって、日ざしが暖かくなると、子供たちの外で遊ぶ元気な声が聞こえてくる
木にのぼったり、動物たちとかけっこしたり
だけど
——森にけものがいなくなった日 森はひっそり息をこらした——

演出のことば

我がN.D.C(にじょダンシングチーム, あっ, いやいや, 二女ドラマサークル)は、ほとんど未経験とっていい、創作劇に挑戦しました。戯曲をつくることから始める演劇活動のなんとつらいこと。しかし今回の練習を通じて、たくさん知ることができました。
文学との出会い、部員たちの熱意、脚本の中に生きている人間たちの葛藤・創作劇の難しさ、都合の良さ、そしてもっと現国を勉強しておけばよかったなあということ。
それらを胸に少しでも私たちの考えが伝わればと思い練習してきました。この脚本が理解していただけることを、外より寒い部室の中から願っています。

上演 8 聖ウルスラ学院高等学校

招待 状

作 湯川計伍

顧問 北島雅之

脚色 演劇部

部長 江戸美由紀

スタッフ

演出 江戸美由紀(2)
菅井麻由美(3)
舞台監督 松岡 洋子(2)
装 置 千葉 秀美(2), 豊島 清美(1)
三鈴 恵美(2), 佐々木晴美(3)
照 明 近江真理子(2), 伏見美奈子(3)
菊地 英子(2), 大友 征美(2)
効 果 高山 美香(3), 星野 瞳(1)
船山 美保(1), 太田 千秋(3)
衣裳・メイク 伊藤ふじ美(3), 阿部智可子(1)
高橋 弘美(3)

キャスト

女性 A 小林 早苗(3)
B 高橋 弘美(3)
C 角川 静(3)
D 小椋 晴美(1)
E 森谷 尚枝(2)

あらすじ

神というものは、時には優しく愛の手を差し伸べ、時には厳しく人間達の生き方を見つめたりするものである。

9月のある夕暮れ、教会の見える公園に次々と5人の女性達が神からのプレゼントを受け取るために集まってくる。プレゼントを得る条件は椅子に座って待ってなければならない。しかし、人間5人に椅子4個、当然1人はプレゼントを得ることは、出来ないのである。そして、約束の時間が来て、神からのプレゼントが渡されるが……。

演出のことば

人間本来の生き方が失われつつある現代。ただ何の気なしに毎日の生活を営んでいる私達は、それがどうあるべきかを自分で追求していかなければなりません。それを見出す糸口となったのがこの脚本でした。自分の欲求や夢を満たす事も大切ですが、不安や恐れを抱いて生きていくのも一つの生き方であるということを忘れないで下さい。そしてあなたの心に煌く何かを感じとっていただければ満足です。
練習はつらい事も数多くありましたが、持ち前の明るさとバイタリティでがんばってきました。昨年とは一味ちがう私達をお見せできそうです。

上演 9 仙台女子商業高等学校

あなた自身の伝説

□ 作 坊丸一平

□ 顧問 藤村延子, 佐々木清史
部長 庄子利枝

□ スタッフ

演 出 斎藤 時子(2)
舞台監督 庄子 利枝(2)
装 置 鈴木美世子(2), 早坂真由美(1)
早坂てるみ(3) 高橋はな子(2)
安達 裕子(2)
照 明 佐藤 美和(2), 庄子 明美(3)
大沼 裕美(3)
効 果 庄子 利枝(2), 千葉 明子(3)
佐藤 美香(3)
衣裳・メイク 山木 豊子(2), 高橋 育子(3)
安保 靖子(3)

□ キャスト

山科 京子 早坂真由美(1)
はづき汀 鈴木美世子(2)
母 阿部 京子(3)
祖母 山木 豊子(2)
女性記者 斎藤 時子(2)

□ あらすじ

大学を卒業して、婚約者との結婚を待つばかりの23才の山科京子の部屋に突然現れた女が自分と京子は同一人物であるという。そこへ訪れた女性週刊誌の記者により、その女の正体が人気歌手の「はづき汀」であるとわかる。汀の本名がなんと山科京子。汀の語る思い出話は、京子のそれと同じ。祖母と両親そして婚約者の名までが同じ……。全然別人に見える2人はどちらが本物の山科京子なのだろう……？

□ 演出のことば

自分たちと同じ年代の人物が登場する脚本ばかり選定してきたための「慣れ」からくる貧困な発想や怠慢をなくして新しいものに挑戦しようという気持でこの脚本をとりあげました。人数、時間、体力、知恵、部費の不足といった不安が私たちの上に陰気な空気として容赦なくのしかかります。しかし、私たち仙台女子商業高校演劇部「激談！うなり座か」は、不安にも病気にも、そして実業高校の宿命とも言うべき度重なる検定試験の恐怖にもめげず、闘志に燃えてがんばります！

上演 10 朴沢女子高等学校

広島の女

□ 作 長谷川行勇

□ 顧問 伊藤真理子
部長 永野富美子

□ スタッフ

演 出 永野富美子(3)
舞台監督 滝浦 礼子(2)
装 置 内ヶ崎由美子(3), 佐藤 聖美(2)
菅原ちづ子(3), 福島奈々子(1)
菊地 広美(1), 庄司 和江(1)
照 明 関 裕子(2), 岡 由貴子(1)
古谷 明美(1)
効 果 阿部 幸恵(2), 千葉真由美(1)
今野 明美(1)
衣裳・メイク 岩腰千代子(2), 庄司 幸枝(1)

□ キャスト

田上 葉子 加藤 幸恵(3)
矢野 京子 永野富美子(3)
番屋 つや 済谷川優子(2)
小使いのおばさん 佐野 幸子(1)
海見 ルリ 井出みちよ(2)
青木 茂代 鈴木 秀美(3)
アキ 小関 富恵(3)
房子 結城 俊枝(3)
文岡 菊江 生田 博子(2)
加山 公子 小野寺道子(2)
1 橋本 誓子(1)
2 横田 奈穂(1)

□ あらすじ

「一体、誰が私にこんな生活を与えたの？一人の女を目茶苦茶に引きさき、引きずり廻す権利は誰が持っているの？……」
忘れもしない昭和20年8月6日、空襲警報と共に、空から一つの爆弾が広島市に落とされ、一瞬のうちに数十万人の人達が命を失った。
あれから6年、戦争は終わったが、戦争で受けた葉子の傷は終わりを告げない。
葉子はこれからどう生きて行くのか？
そしてルリは……。

□ 演出のことば

今年は、どういうものをやろうかと何度も何度も話し合った結果、やっと決まったのがこの脚本。
“戦争”を知らない私達が、果たしてどこまで“戦争”という二文字を理解することができるか？もし今、“戦争”がふたたび起こるようなことがあったらどうなるのだろうか……。
“戦争”そして、教師と生徒の“愛情”をテーマとし、私達なりに取組んできました。ここまでもってくるには、いろいろと困難なことはありましたが、“やってやれないことはない。やらずにできるはずはない。”と心に言い聞かせながら今日まできました。今年もがんばります。

上演 11 宮城県仙台向山高等学校

無情空間

□ 作 演劇部

□ 顧問 永沢幸助

部長 永野博子

□ スタッフ

演出 永野 博子(2)
 舞台監督 久保田千佳子(3)
 装置 千坂ゆかり(1), 須藤恵理子(3)
 照明 目黒 早苗(1), 小久保 仁(2)
 渡辺 重夫(2), 間枝 武彦(1)
 正木 三和(3)
 効果 千坂ゆかり(1), 富田 洋一(2)
 栗山 隆(1)
 衣裳・メイク 菅原 幸恵(2), 阿部ゆかり(3)

□ キャスト

看護婦 目黒 早苗(1)
 女子高生 千坂ゆかり(1)
 水商売の女 菅原 幸恵(2)
 黒い服の女 永野 博子(2)

□ あらすじ

無情空間——。そこに女子高生, 水商売の女, 看護婦が迷いこんでくる。そして彼女達は…。
 ——倅せてなんだろう——
 それぞれ一生懸命生きてきた彼女達が求めた倅せとは——。

□ 演出のことば

部員数がなんと4人。キャストも4人。スタッフはキャストを兼ねている部員と, 引退された先輩と, 放送部の方と, その他お手伝いの人々……。そして今回は向山高校演劇部創立以来初めて創作劇にとりくみました。劇作りにあたって案がまとまらず, もめたこともありましたが, 部員で力を合わせて作った劇なのでとても気に入っています。
 人間が永遠に求め続けるもの——それは倅せだと私達は考えます。それをこの劇を通して訴えようと思います。

上演 12 宮城県仙台南高等学校

埴生の宿

□ 作 石塚雄康

□ 顧問 川村敏由

部長 石垣節子

□ スタッフ

演出 石垣 節子(1)
 舞台監督 小原知香子(1)
 装置 後藤 文昭(1)
 照明 内海 麗子(1), 佐藤奈美江(1)
 効果 遠藤 浩太(1), 森 龍雄(1)
 衣裳・メイク 柿沼由加利(1), 大友しのぶ(1)

□ キャスト

母 小原知香子(1)
 姉 斎藤 敦子(1)
 妹 大友しのぶ(1)
 姉の娘 柿沼由加利(1)

□ あらすじ

二人の娘が箱の中で育てられていた。二人の誕生日に母は父の祝電を読む。父とは常に連絡があって, 鎖でつながれているその先に父がいると思わせながら, 理想的な父の像を描かせているのだ。姉は母のやり方に甘んじているが, 妹はやり切れなく家を出たいと思う。そこで母の鎖を引いてしまい, その先には何もなく父のことが嘘であることを知る。再び箱の中に押し込められるが, 妹は箱を破って外に出て母の首を締める。姉はそれを見ているだけ。ついに妹は家を飛び出す。母がその後を追う。
 何年かが過ぎて, 母の位置には姉が, 姉の箱には姉の娘がいる。この娘も家を出たがっている。そこへ妹が自分の娘をつれて戻ってくる。

□ 演出のことば

私達は部員すべてが一年生という悪条件の中, 一生懸命やってきました。しかし, いくら一生懸命とはいえ経験不足は経験不足。そのため脚本もなかなか決まらずやっとなので決まったのがこの「埴生の宿」。私達はこの作品の中で家というものは, 人間の自由を束縛し, どんなに退屈なものか, 親の愛情は子供にとってどんなに迷惑なものかということを出そうと思っています。最も苦労したのはスタッフ面。プランのたて方もろくにわからない状態で, ほんのちょっとしたことを決めるのに長い長い時間を費しました。こんな私達の劇, 不安でいっぱいですが技術面は気力でカバーします!

上演 13 宮城学院高等学校

Daydream believers
—空想の信者—アビエスの木—

□ 作 演劇部

□ 顧問 高沢廣子, 石井純子
部長 高橋比呂子

□ スタッフ

演 出 名取由里子(3), 大内由佳子(2)
加藤 祐子(1)
舞台監督 高橋比呂子(2), 片桐 美幸(1)
装 置 加納 康子(1), 石垣 裕美(1)
笹 小夜子(1), 鈴木 千寿(3)
森 ひとみ(1),
照 明 石川 恭子(2), 浅井 実紀(1)
鎌田 陽子(1), 屋代 裕子(3)
効 果 小泉 恵美(1), 黒瀬 直子(2)
佐藤 雅子(2), 幕田美智恵(2)
及川 京子(3)
衣裳・メイク 亀井加代子(2), 森 美保子(1)
山口久美子(3), 岩佐ゆかり(2)
唯野 優子(2)

□ キャスト

語り手 大内由佳子(2)
ワルター 鈴木 千寿(3)
ロッチェ 小野寺聡子(1)
木(男) 名取由里子(3)
(女) 斎藤 由美(1)
母 森 ひとみ(1)
オッター 加藤 祐子(1)
エルナ 小原 恵(1)
ウィリ 渋谷久美子(1)
コンラート 片桐 美幸(1)
イライザ 尾代 裕子(3)

□ あらすじ

アビエスの木を知ってるかい。ホレの森のてっぺんの一番大きな木のことだよ。
アビエスの木=もみの木。

□ 演出のことば

がんばります。

上演 14 宮城県第三女子高等学校

赤いチケット

□ 作 内木文英

□ 顧問 内海郁夫
部長 村主明子

□ スタッフ

演 出 村主 明子(2)
平山 増美(1)
舞台監督 遠藤 寿美(2)
装 置 宮入 千晶(2), 吉田 悦子(2)
前田 葉子(2), 佐藤由美子(1)
照 明 花岡かおり(1), 兵藤 ゆか(2)
小山 佳子(2), 福田枝実子(1)
効 果 渡辺 雅子(1), 安達 佳子(2)
小林 千津(1), 氏家ゆかり(1)
渡辺 里加(1)
衣裳・メイク 安念 明美(2), 猪狩 聖子(2)
高橋しのぶ(1), 佐藤 明美(1)

□ キャスト

川 村 秋 江 平山 増美(1)
西 田 美 代 兵藤 ゆか(2)
老 婆 安達 佳子(2)
女 A 佐藤 明美(1)
B 福田枝実子(1)
C 猪狩 聖子(2)
女 生 徒 A 安念 明美(2)
B 宮入 千晶(2)
C 高橋しのぶ(1)
D 佐藤由美子(1)
先 生 前田 葉子(2)
鐘を持った女 吉田 悦子(2)
秋 江 の 母 氏家ゆかり(1)
秋 江 の 妹 小林 千津(1)

□ あらすじ

この世から逃げ出してみたい、と憂いに沈む秋江が描く空想の世界——そこは青暗く、雨の降る悲しみの世界。そこに登場する人達は皆、「赤いチケット」を持っている。それぞれが、それぞれの望みをかなえようと「赤いチケット」という招待状を手に入れた。「赤いチケット」とは、この世を本当に抜け出したい者だけに与えられる、あの世行きの切符なのである。

「私は誰のために存在しているのか。」……いつの間にか秋江は“あの世”を見つめるようになっていた。

□ 演出のことば

とにかく全員が共鳴し、全員が賛成した作品を、ということを前提に時間をかけてよく話し合った結果、この脚本に決定しました。私達はこの脚本によって、若い人々のフィーリング、また、生きることについての重みや大切さなどをみなさんに訴えたいと思います。そして「赤いチケット」の持つ意義の隅から隅までを感じとって載きたいと思っています。抽象劇ということで考えを広く持ち、こじんまりとした劇にならないようにするのに苦勞しました。女子校独特の女らしさの中に、力強くたくましい一面も、劇の中に見てほしいと思っています。コンクールにあたって慎重に活動してきた私達です。どうぞ暖かい目で見てやって下さい。

上演 15 常盤木学園高等学校 愛プロローグ
一少女の青春によせて一

□ 作 演劇部

□ 顧問 小野寺典世, 今野 仁
木村芳子
部長 高橋順子

□ スタッフ

演 出 日野千賀子(3)
演出助手 佐々木輝美(2)
舞台監督 小島 早苗(2)
舞台監督助手 佐藤 陽子(1)
装 置 齊藤 洋子(1), 真木 富美(2)
杉山知佳子(1)
照 明 菅 由理恵(2), 菅原 正子(1)
効 果 赤羽 麻野(1), 大森 和枝(1)
相原 幸枝(1)
衣裳・メイク 松井 明美(1), 引地はるみ(3)
船越 佳子(1)

□ キャスト

なおみ 笹原 晴美(2)
老人 加藤 琴絵(1)
看護婦 山崎みどり(3)
幼少のなおみ 郷家 明美(1)
幼少のさち 齊藤千恵子(2)
コロス1 (母) 引地はるみ(3)
2 佐々木輝美(2)
3 天野 敏恵(1)
幼少時代のなおみ・さちの母
高橋 順子(3)
女の子 佐藤 陽子(1)
声 菅原 正子(1)

□ あらすじ

なおみのママはうわきもの?
ちがう! ママはうわきものなんかじゃない。
なおみはママが大好き。
ママはなおみだけのママだもん。
なおみはママが大好き。

——— だけど ———

なおみはママが大好き……………。
なおみはママが……………。
なおみは……………。

——— 愛・プロローグ 少女の青春によせて ———

□ 演出のことば

精一杯練習してきました。
スタッフ, キャストすべての力を発揮することができれば最高です。

上演 16 仙台育英学園高等学校 ポンコツ車と5人の紳士

□ 作 別役 実

□ 顧問 辺江昭良
部長 佐藤勝宏

□ スタッフ

演 出 佐藤 勝宏(3)
浅部 龍男(3)
舞台監督 中村 利通(2)
装 置 山本 典(2), 田代信太郎(2)
照 明 日野 正義(2), 阿部 清辰(2)
効 果 佐藤 一夫(2), 後藤 剛(2)
大室 敏也(3)
衣裳・メイク 浅部 龍男(3)

□ キャスト

紳士 1 猪口 達也(2)
2 菅野 隆幸(2)
3 富田 豊広(2)
4 武者 淳(2)
5 川上 哲也(2)

□ あらすじ

この劇は、一台のポンコツ車を五人の紳士が囲んで、靴の話をしているかと思うと、こんどは手紙を持ち出してきてその内容をみんなに読んでやったりしている。そんな事をしている内に、最初の事をわすれて自分達の中に手紙を書いた人がいるんじゃないかと言います。しかし、そんな人はいるはずがない。そして五人の紳士はそれぞれ最初の事を思い出していく。けれども、五人が五人とも自分の都合の良い事しか思い出せない。けれども最後には……………。
仙台育英がむずかしいといわれる抽象劇に挑戦し、人間の無責任さや軽薄さを表わしました。まずは御観覧の上、皆様の批評をおねがい致します。

□ 演出のことば

我々は、自分達をも含めてだが、今日の若者の無責任さや軽薄さなどをこの劇を通して訴えようと思っている。しかし、そのためには、劇を作り上げる前に我々自身が無責任さ、軽薄さを治していかなければいけないと思い、脚本が決まってからは部員同志で注意し合い治そうと努力しています。そのために部員全体が一つの輪となっています。そしてこの一つの輪でコンクールにぶつかっていきます。
最後になりますが、我々は毎日、悔いの残らない演劇や高校生活をしようと言い合ってガンバっています。

上演 17 宮城県第一女子高等学校

醜 類

□ 作 演劇部

□ 顧問 浅野茂雄, 早川俊雄
部長 日塔理香

□ スタッフ

演 出 鈴木 紹子(2)
舞台監督 高橋 敏江(2)
装 置 日塔 理香(2), 長瀬 真美(1)
菊田 由紀(1)
照 明 鈴木 紹子(2), 佐藤 仁美(1)
早川 麻子(1)
効 果 大窪亜紀子(2), 大沼 千恵(2)
柴田 暁(1)
衣裳・メイク 佐々木美穂子(2)

□ キャスト

A 佐々木美穂子(2)
B 早川 麻子(1)
C 菊田 由紀(1)
D 大窪亜紀子(2)
E 佐藤 仁美(1)
教 師 大沼 千恵(2)
男 ?

□ あらすじ

「どうして私が魔女なの？」
一人の少女が魔女だといわれながら殺された。
そして、今、いつもと変わらない教室で、同じような現象が起きようとしている。
人間の心の奥底にひそんでいる弱さが、どうしても異端者をつくらずにはいられなくなった時、一体 何が起きるのか?!

□ 演出のことば

みなさんの中で、生まれてこのかた、人を憎らしいと思ったり、嫉妬心を抱いたりしたことが、全くない、という人は、一体いるのでしょうか?! おそらく、ほとんどの人がこのような感情を持ったことのある人だと思います。この恐ろしい感情が、もし一度に爆発したら…。人間の本质を表現してみたくなって、この脚本にとりかかりました。
やっと協議会に加わることができて、部員一同、張り切って練習しています。まだまだ未熟ではありますが、どうぞよろしくお祈りします。

上演 18 宮城県泉高等学校

にび色の砦

□ 作 雑賀 聖

□ 顧問 川村裕子
部長 佐伯むつみ

□ スタッフ

演 出 佐藤しのぶ(2)
藤島奈々恵(1)
舞台監督 渡辺 昭子(2), 佐々木真理(1)
装 置 栗田奈留美(2), 丹野 裕美(1)
橋場 裕子(1),
照 明 中山 朋子(2), 藤島奈々恵(1)
谷口 文代(2), 乳井ひとみ(2)
効 果 佐々木真理(1), 永沢奈穂美(1)
高橋紅美子(1)
衣裳・メイク 佐伯むつみ(2), 高橋 美恵(1)
中島由紀子(2)

□ キャスト

主 婦 中島由紀子(2)
強 盗 高橋紅美子(1)
借金取り 橋場 裕子(1)
情 婦 永沢奈穂美(1)
サークル 乳井ひとみ(2)
押 売 り 谷口 文代(2)

□ あらすじ

人の心は弱いもの。弱い心を守るため、人は無意識のうちにうそを覚える。しかし、それがあまりにもエスカレートした時……。
若い主婦にとって、ひとりぼっちのマイホームは、あまりにも冷たく、退屈だった。そんな彼女の唯一の楽しみは、いたずら電話だった。そこへ次々と、ちょっと変わったお客様があらわれる。なりゆきとは恐ろしいもの。ひとつの“うそ”をキッカケに、主婦は大うそつきになってしまう。
弱い心を守るはずのうそが、しまいには我が身を窮地へ追いやってしまう結果に。

□ 演出のことば

先輩方に励まされ、他校の部員に刺激されやっと目覚めた15人。燃えたい。手ごたえのある作品をやりたい! とはいえ、基礎力不足に人数不足。資金はスズメの涙ほど。これでは、まるでバクチだなどと思った事もありました。それでも「これがやりたい!」とがんばったガンコな連中。「よーし、やってやろうじゃん。」とむきになってる連中。それぞれの思いをこめて、日夜悪戦苦闘を続けております。

上演 19 東北高等学校

クレンジング・ブルー

□ 作 演劇部

□ 顧問 斎藤信雄

部長 大塚昭彦

□ スタッフ

演出 星 睦生(3)
大塚 昭彦(2)
舞台監督 小野 健市(3)
装置 小野 健市(3)
照明 福泉 政之(2), 小野寺 巧(3)
伊藤 祥司(1)
効果 白石 浩寿(2), 数馬 茂(1)
山口 史訓(1)
衣裳・メイク 山内 孝一(2),

□ キャスト

少年 中西 直行(1)
次郎 阿部 尚(3)
太郎 井沢 芳郎(3)
「Y」 今内 隆(2)
流し, 神様 星 睦生(3)
その他, A, B, C, ……

□ あらすじ

いつまでも気づかないままで笑うあなた。本当は気づいているはず。
あなたは、なにも言わないけど子供のように笑い続ける。
そして、あなたが一言も言わずに死んでもなにも変わらない。“す・べ・て”
それでも、笑うあなたは誰? ……
誰でもいい、目覚めて、いつまでも寝ている場合じゃない。
さあ、早く、起きて!
クレンジング・ブルーは、そう叫び続ける少年の話です……………。
エッ!? なにか文句でもあるんですか? あるなら楽屋に来て、楽屋に!

□ 演出のことば

わが演劇部「もへじ座」の伝統にもなってきた、“創作劇”への挑戦……………。今回われわれもまた、これに取り組んできました。みんな、自分の最大限の力をふりしぼり、必死になって書き上げてきた脚本。その数は二ケタにもものぼったものの、それはまだ完成されていない、未熟なものばかりでした。そんな中から、みんなの気持ち一致して推されたのが、この「クレンジング・ブルー」です。多くの中から選ばれたものとはいえ、みんなの知恵と力を出しきってより良いものへと仕上げ、やる気マンマンの意気込みを舞台の上で見せします。

上演 20 仙台高等学校

名もなき兵士

□ 作 ウォーレン・フロスト

□ 顧問 阿部順夫

□ 訳 田中迪也

部長 菅原久二子

□ スタッフ

演出 荒 幸成(2)
森内理恵子(2), 庄子 美和(1)
舞台監督 佐藤 明子(2), 菅原久仁子(2)
西條 洋江(1)
装置 貝沼 俊之(1), 菅原久二子(2)
鑑本 智子(1),
照明 黒田みゆき(1), 西條 洋江(1)
効果 風間 恵(2), 鑑本 智子(1)
衣裳・メイク 小林 幸子(2), 星 恵美子(1)

□ キャスト

ルーカス 荒 幸成(2)
ジェス 菅原久仁子(2)
エドナ 森内理恵子(2)
バート 永田康一郎(2)
コーラ 高橋 紀子(1)
伍長 佐藤 総大(2)

Produced by arrangement with THE

DRAMATIC PUBLISHING COMPANY of Chicago

□ あらすじ

ペンシルヴァニアの小さな田舎町の冷え冷えとしたしめっばいある一日。
フォーリィ夫妻の貧しい家に集まったのは、二組の夫婦と一人の夫亡人であった。
午後7時には、彼らの客である伍長がやって来る。
そして六人は、ある終曲へと向かって、ささやかな宴をくりひろげるのだった。

□ 演出のことば

脚本決定が非常におそくなったため、練習期間が短くなってしまいました。しかし、そこは、若さでカバー。いや、キャストは、年をとらねばならぬ。と言って、年寄り臭く、熱意をもって年とって。
少しでもお客様に楽しんでいただける様、キャスト・スタッフそろってがんばっております。

仙台市高等学校演劇祭上演記録

第1回 昭和43年11月28日～12月1日

最優秀 仙台工業高等学校 「ふきだまり」 湯川 計伍作
 優秀 東北工業大学電子工業高等学校 「轍」 水野 文雄作
 優秀 宮城学院高等学校 「唾のユミュリユス」 ジャン・アヌイ作
 鈴木りきえ訳

第2回 昭和44年11月6・9・15・16日

最優秀 仙台工業高等学校 「面(ますく)」 演劇部作
 優秀 宮城学院高等学校 「高等学校数学I」 野田市太郎作
 優秀 仙台白百合学園高等学校 「長い長い橋の上で」 内木 文英作

第3回 昭和45年11月19日～23日

最優秀 仙台工業高等学校 「勉強を邪魔するやつは誰だ」 福田 薫作
 優秀 仙台商業高等学校 「橋の上」 高橋 英子作
 優秀 宮城県第三高等学校 「墨東記」 阿坂卯太郎作

第4回 昭和46年11月18日～21日

最優秀 宮城県名取高等学校 「魔女宣言」 高橋英太郎作
 優秀 尚綱女学院高等学校 「虫めづる姫」 榊原 政常作
 優秀 聖和学園吉田高等学校 「遠いふるさと」 鶴田 康己作
 佳作 仙台育英学園高等学校 「駆けて行け弔旗を降ろし」 木村 純一作
 佳作 仙台白百合学園高等学校 「外向168」 榊原 政常作

第5回 昭和47年11月16日～19日

最優秀 聖ウルスラ学院高等学校 「ある群れ」 湘南女子高等学校演劇部作
 優秀 常盤木学園高等学校 「試行錯誤」 佐々 俊之作
 優秀 仙台白百合学園高等学校 「ある午後」 岡野奈保美作
 佳作 聖和学園吉田高等学校 「薯の煮えるまで」 風見 鶏介作
 佳作 宮城県名取高等学校 「土壇場」 林 黒土作

第6回 昭和48年11月14日～18日

最優秀 宮城県名取高等学校 「影ぼうし紀行」 野辺 由郎作
 優秀 常盤木学園高等学校 「当世幼談」 町井 陽子作
 優秀 聖ドミニコ学園高等学校 「静かなる朝」 原 博作
 佳作 宮城県第三女子高等学校 「青い鳥」 演劇部作
 佳作 仙台育英学園高等学校 「ポンコツ車と五人の紳士」 別役 実作

第7回 昭和49年11月19日～23日

最優秀 常盤木学園高等学校 「才女ありて」 町井 陽子作
 優秀 仙台女子商業高等学校 「試行錯誤」 佐々 俊之作
 優秀 仙台育英学園高等学校 「ポンコツ車と五人の紳士」 別役 実作
 佳作 宮城県名取高等学校 「遠いかなしみの総括」 かざた義彦作
 佳作 仙台白百合学園高等学校 「狂育白書」 佐々 俊之作
 佳作 尚綱女学院高等学校 「授業」

第8回 昭和50年11月20日～54日

最優秀 宮城県名取高等学校 「流れ星四番」 野辺 由郎作
 優秀 聖和学園吉田高等学校 「遠いふるさと」 鶴田 康己作
 優秀 仙台高等学校 「遊びましょ」 榊原 政常作
 佳作 宮城学院高等学校 「芝居」 サミエルベケット作
 佳作 東北高等学校 「カボチャ畑に桜が散った」 演劇部作
 佳作 仙台工業高等学校 「信号」 ガルシン原作
 演劇部脚色

第9回 昭和51年12月1日～5日

最優秀 聖和学園吉田高等学校 「ある群れ」 湘南女子高等学校演劇部作
 優秀 宮城県名取高等学校 「聞いてる？ミランダ」 ジョン・アー作
 優秀 宮城県第二女子高等学校 「きくちまさる脚色」
 佳作 仙台女子商業高等学校 「夢の中へ」 藤山久理子作
 佳作 宮城学院高等学校 「自縄自縛」 佐々 俊之作
 佳作 仙台高等学校 「The Daydream Believer」 演劇部作
 創作 東北高等学校 「注文の多い料理店」 宮沢 賢治作
 奨励賞 演劇部脚色
 「芝居は何処」 演劇部作

第10回 昭和52年11月22日～27日

最優秀 常盤木学園高等学校 「三途の川を渡りそこねた少女の話」 丹野久美子作
 優秀 聖和学園吉田高等学校 「薯の煮えるまで」 風見 鶏介作
 優秀 宮城県名取高等学校 「埴生の宿」 石塚 雄康作
 佳作 宮城県第二女子高等学校 「黒いゲーム」 船津 量平作
 佳作 宮城県名取高等学校 「クリスマス」 かざた義彦作
 佳作 朴沢女子高等学校 「時をむだなく」 土屋 弘光作
 創作 宮城県船岡養護学校 「出発」 演劇部作
 奨励賞

第11回 昭和53年11月21日～26日

最優秀 東北高等学校 「蜂 蟻」 演劇部作
 優秀 宮城学院高等学校 「不思議な国のアリス」 伊藤 美樹作
 優秀 常盤木学園高等学校 「懸 陰」 演劇部作
 優良 仙台高等学校 「正午の伝説」 別役 実作
 優良 仙台女子商業高等学校 「面接試験」 石上浩一郎作
 創作 宮城県第二女子高等学校 「新注文の多い料理店」 演劇部作
 奨励賞

第12回 昭和54年11月23日～25日

最優秀 朴沢女子高等学校 「しんでれら・げえむ」 坊丸 一平作
 優秀 宮城県仙台第一高等学校 「永い冬の終わる頃」 長谷川 章作
 優秀 三島学園女子高等学校 「最後の選択」 演劇部作
 優良 常盤木学園高等学校 「青き日の童話にて…」 演劇部作
 優良 宮城県第二女子高等学校 「栄光の日」 町井 陽子作
 創作 宮城県仙台第一高等学校 「永い冬の終わる頃」 長谷川 章作
 奨励賞

第13回 昭和55年11月20日～23日

最優秀 宮城学院高等学校 「魔 薬」 D・アリス作
 優秀 尚綱女学院高等学校 「又寝ると明日たいね」 演劇部脚色
 優秀 宮城県第二女子高等学校 「白い風景」 水野 一成作
 優良 東北高等学校 「飛べない飛魚」 演劇部脚色
 優良 朴沢女子高等学校 「にび色の砦」 川崎市高津高等学校演劇部作
 創作 宮城県仙台第一高等学校 「代 償」 演劇部作
 奨励賞

生徒実行委員名簿

委員 長 吉 田 ゆ み 聖 和 (3)
 副委員 長 富 田 豊 廣 育 英 (2)
 生 田 博 子 朴 沢 (2)
 書 記 橋 本 誓 子 朴 沢 (1)
 日 塔 理 香 一 女 (2)

□企 画
 企画チーフ 井 沢 芳 郎 東 北 (3)
 サ ブ 遊 佐 美 香 白百合 (1)
 サ ブ 相 沢 久 子 白百合 (1)
 板 垣 由美子 二 女 (2)
 大 友 ひろみ 二 女 (1)
 大 友 征 美 ウルストラ (2)
 阿 部 智可子 ウルストラ (1)
 千 葉 恵理子 ドミニコ (2)
 高 橋 潤 子 ドミニコ (1)
 大 場 政 信 仙 工 (2)
 五 島 信 浩 仙 工 (2)
 菅 原 幸 恵 向 山 (2)
 永 野 博 子 向 山 (2)
 山 口 史 訓 東 北 (1)
 斉 藤 敦 子 南 (1)
 大 友 しのぶ 南 (1)
 板 橋 幸 江 聖 和 (1)

□広 報

広報チーフ 大 沼 裕 美 女子商 (3)
 サ ブ 安 達 佳 子 三 女 (2)
 サ ブ 斉 藤 洋 子 常盤木 (1)
 山 本 豊 子 女子商 (2)
 鈴 木 紹 子 一 女 (2)
 阿 部 清 辰 育 英 (2)
 菅 原 正 子 常盤木 (1)
 藤 江 淑 三 島 (1)
 相 沢 絵 美 三 島 (1)
 佐々木 真 理 泉 (1)
 渡 辺 昭 子 泉 (2)
 高 橋 しのぶ 三 女 (1)
 鏡 本 智 子 仙 高 (1)
 庄 子 美 和 仙 高 (1)
 片 桐 美 幸 宮 城 (1)
 加 納 康 子 宮 城 (1)
 川 辺 学 一 高 (1)
 吉 田 正太朗 一 高 (1)

生徒審査員名簿

委員 長 千 葉 明 子 (女子商・3)
 副委員 長 佐々木 崇 (仙 工・2)
 小 野 健 市 (東 北・3)
 高 島 美 樹 (聖 和・3)
 後 藤 剛 (育 英・2)
 名 取 由 里 子 (宮 城・3)
 庄 子 恵 美 (白百合・3)
 菅 井 麻 由 美 (ウルストラ・3)
 高 橋 順 子 (常盤木・3)
 野 村 純 子 (三 女・3)

高 橋 英 明 (仙 高・3)
 久 保 田 千 佳 子 (向 山・3)
 谷 口 文 代 (泉 ・2)
 相 原 万 貴 子 (二 女・3)
 滝 浦 礼 子 (朴 沢・2)
 高 橋 ゆ かり (三 女・3)
 佐 藤 美 恵 子 (ドミニコ・2)
 浅 野 正 己 (南 ・3)
 佐々木 美 穂 子 (一 女・2)

技 術 指 導

舞台・音響効果 金 野 倫 明
 照 明 明 木 田 修 司, 小 野 正 宏, 両 国 一 広